

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 寺本 亮洞  
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和元(2019)年9月1日 日曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

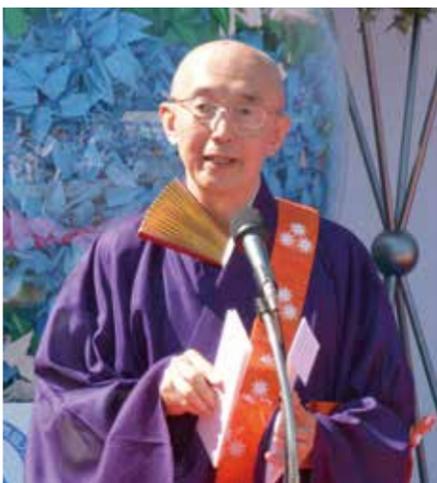
天台ジャーナル



比叡山宗教サミット32周年「世界平和祈りの集い」が8月4日、比叡山延暦寺の一隅を照らす会館前「祈りの広場」で開催された。仏教はじめ、神道、キリスト教、イスラーム、新宗教など国内外から約900名の宗教関係者が参加し、世界の恒久平和実現へ共に祈りを捧げた。

## 「世界平和祈りの集い」

比叡山宗教サミット 32周年 世界の宗教代表者が垣根を越えて平和を希求



開式に当たり「私ども宗教者は、対話による相互理解を深め、価値観の多様性を認め、共に祈り、世界平和を希求し続けなくてはなりません」と挨拶する杜多道雄天台宗宗務総長

その後、国内外の諸宗教代表者ら11名が登壇。午後3時半に文殊楼にある鐘楼「世界平和の鐘」が打ち鳴らされると、壇上の代表者たちは会場の参加者とともに平和を願う黙祷を捧げた。

式典は午後3時から杜多道雄天台宗宗務総長の開式の挨拶で始まった。天台青少年比叡山の集いに参加した青少年研修生らと、一隅を照らす運動総本部から招待されたタイとインドの子ども達10名も共に折り鶴を奉納した。比叡山メッセージが朗読された後、続いて森川宏映天台座主猊下がお言葉を読み上げられ、「世界の現実

は自国の立場に固執し不信を募らせ、武力による威嚇や武力行使は後を絶ちません。こうした争いによる犠牲者の苦しみと悲しみに心を寄せるとともに暴力と憎悪の連鎖を断ち切り、互いが和する協調の力で慈悲の心を育てねばなりません」と訴えられた。

最後は小堀光實延暦寺執行の挨拶があり、参加者全員で互いに手をつなぎあうよう呼びかけられ、平和への祈りと行動を続けることを誓いあい閉会となった。

また、子どもたちから「平和への思い」と題した作文を、高校生代表の和田真琴さん(高一)、青少年代表の貴船新太さん(中三)が朗読、その思いをうけ、宍野史生扶桑教管長が宗教者の将来に向けた取り組み等を若者たちに約束する言葉を送った。

海外からもメッセージが寄せられ、ローマ教皇庁諸宗教対話評議会(PCID)議長のみゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット司教(代読・駐日ローマ法王庁大使館参事官ウエチェスラヴ・トウミル)、パン・ワナメティ世界仏教徒連盟(WFB)会長(代読・和田善秀全日本仏教会総務部長)の平和メッセージが披露された。

### 平和への祈りと行動の持続を

#### 極微

「セミは地上に出るから10日前後しか生きられない」と思っていたが、どうもそれは俗説のようだ。岡山県の高橋生が野外調査で、それを裏付けるような結果を得たというニュースがあった。調査の方法は、蝉の羽に印をつけて放し、後日に捕獲し、いつ放った蝉か調べるといふもの。7月から2カ月ほどかけて800匹以上の蝉を使って調査、その結果、アブラゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミの3種で10日以上生存を確認。最長生存確認記録はアブラゼミが32日間、ツクツクボウシが26日間、クマゼミが15日間だったという。羽化する前、蝉の地中生活は3年から17年と幅がある。最近の調査では、ミンミンゼミで2〜4年、ツクツクボウシで1〜2年、アブラゼミで2〜4年という。身近な蝉は、案外地中生活が短いようだ。この世のむなしさ、はかなさの例えとして「空蝉」という言葉が使われる。「空蝉」は蝉の抜け殻のこと。主である蝉はわずかな時間の「生」を生き、滅してしまっても、抜け殻だけが残っているのを見ると、人は人生のはかなさを感じるのだ。人は、春、夏、秋、冬と四季それぞれを感じながら過ごす。蝉は暑い夏のみ。だからといって蝉は嘆くわけでもなく、一生懸命生きるだけだ。「はかなしい蝉」というイメージは単に人間の尺度から見ただけなのだ。